

2024年度

第2回 北海学園大学市民公開講座

法学部開設60周年記念シンポジウム

入場無料
事前申込
不要

世界の中の北海道

グローバル・ガバナンスの視座

日時

2024年12月14日 土

13:30~16:30 [12:30 受付開始]

会場

北海学園大学 豊平キャンパス 6号館
3階「C31教室」

札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 地下鉄東豊線「学園前」駅下車 3番出口直結

※シンポジウムの詳細は裏面をご覧ください。

〈お問い合わせ先〉 北海学園大学 法学部事務室

TEL 011-841-1161

(内線 2226)

E-Mail : recht@hgu.jp

月~金曜日 9:00~16:00 (12:40~13:40を除く)
土曜日 9:00~12:40

北海学園大学

まずはネットで検索





世界の中の北海道 グローカル・ガバナンスの視座

北海道は、課題先進地であるといわれる。日本国内でも先んじて、少子高齢化が進み、既に急激な人口減少に見舞われている。様々な対策が講じられているものの、人口減少のトレンドを変えることは容易ではなく、今後はいかにダウンサイジングを図っていくかが北海道全体の課題となるのは避けられそうにない。また気候変動は、日本の食糧生産基地である北海道の一次産業を直撃する。気候変動対策として、広大で豊かな自然を利用した再生エネルギーの一層の活用も急務となっている。地政学的にも、ロシアと国境を接し、北朝鮮や中国ともほど近い北海道は、昨今の不穏な東アジア情勢を凝縮した地域でもある。

実は北海道が抱える諸課題は、全世界的に見ても先進的なものだ。人口減少も気候変動も、ゆくゆくは日本の他地域や多くの国が直面することになる課題であり、北海道での対処がうまくいくのかどうか、世界中が舌を巻いて見守っているといっても過言ではない。さらに北海道には、過去にも前例がない先進課題に果敢に取り組んできた歴史がある。本講座では、課題先進地としての北海道が、前例なき難題に過去どのように挑んできたのか、また将来にわたってどのようにそれを克服していくべきなのか、法的・政治的な視点から考える。

なお、本講座は法学部開設 60 周年を記念して実施される。法学部の誇る国際法、国際公共政策、国際政治の精鋭が一堂に会し、各々の専門的見地からグローバル・北海道の過去・現在・未来を読み解いていく。

第 1 部 講演

講演 1
13:35
↓
14:05

国際海峡の通航制度と津軽海峡： 領海 3 カイリ凍結とその意味

法学部教授 加藤 信行

奥尻海峡などは日本の国家領域であるが、津軽海峡には、日本の国家領域ではない部分がある。海峡全部を国家領域にできるのに、なぜそのようにしているのか？そのようにしたほうがよいのか？国際法に照らして考える。

講演 2
14:05
↓
14:35

「GX 特区」を考える — 複合ガバナンスの観点から

法学部講師 津田 久美子

近年、気候変動分野のグローバル・ガバナンスは、安全保障、金融、税制といった複数の問題領域が交錯し、複合化している。複合ガバナンスの論点とは何か。北海道・札幌が選定された「GX 特区」を関連づけて考えてみたい。

講演 3
14:35
↓
15:05

冷戦後の日本外交 — 国力の低下と価値観への傾斜のなかで

法学部教授 若月 秀和

中国の軍事大国化や北朝鮮の核戦力強化など現在の日本を取り巻く安全保障環境は、厳しい状態にある。冷戦後の日本外交は価値観を掲げて、国力低下による劣勢の挽回を図ってきたが、その展望は如何に…。皆さんと共に考えていきたい。

第 2 部

15:20
↓
16:25

パネルディスカッション

司会：法学部教授 菅原 寧格